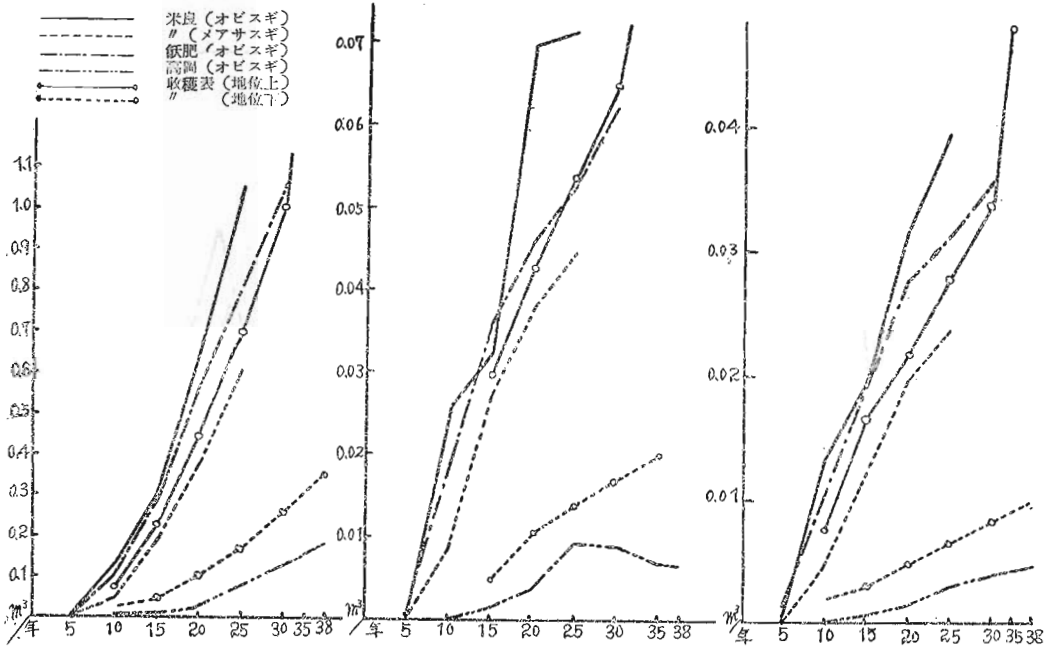


材 積 生 長 曲 線

総 生 長 量

連 年 生 長 量

平 均 生 長 量



か或は成立本数の問題、保育の程度などにより種々論もあることでいろいろな条件ファクタも揃っていない点もあり、厳密な意味での直接比較は無理かと考えられますが以上を概括して宮崎県北その他の方面に於てもおび杉は優秀な造林成績を示すことがうかがえます。第3区の分については保育の手が加えられないも

のは極端に生長が劣ることがうかがえるが、このことについては別途色々な角度から検討する資料にする予定です。

尙同一現場にある(1区)メアサはおび杉より遙かに生長が劣っている事も注目されます。

宮崎地方薪炭林施業の改善に関する研究 (第4報)

九州大学 井上由扶  
宮崎大学 三善正市・緒方吉箕

宮崎地方の薪炭林はこれを大別してコジイを主とする林分、カシ類を主とする林分及びシイ類、カシ類、タブノキ、イスノキその他広葉樹を混交する林分の3つとなすことが出来る。この他にコナラ林、クヌギ林が成立しているが、最近殆んど椎茸原木として利用されるようになった。本報では薪炭林の現況特に林分構成の状態を詳にするため、宮崎県内各地国有林及び一部民有林の薪炭林に標準地(各営林署又は担当区の所管薪炭林に於ける標準的林分と見做されるものを選定)を設けて調査を行ったので、その結果の概要を述べる。標準地選定箇所は国有林各薪炭林作業級で尾鈴(2ヶ所)石河内(4)吹山(3)宮崎(3)内山

(1)高岡(2)須木(1)都城(3)白鳥(2)矢岳(1)小林(3)高原(1)翁島(2)飯肥(3)福島(2)及び民有林(3)宮崎大学演習林(2)計38ヶ所である。調査地の林齢は13年(1ヶ所)14年(1)15年(2)16年(1)18年(1)19年(1)21年(2)22年(2)23年(4)24年(2)25年(6)27年(2)28年(1)29年(3)30年(4)31年(2)32年(2)36年(1)でカシ類を50%(材積)以上混交する林分(4)シイ類を50%以上混交する林分(15)その他(19)であるが、これを熊本営林局調による炭材林の樹種の等級により現出樹種を上、中、下に分類して(上)の混交歩合により分けてみる。

(上) 混交歩合		90%以上	81~90	71~80	61~70	51~60	41~50	31~40	21~30	11~20	1~10
本数	1ヶ所	2	1	4	6	11	8	3	11	1	
材積	0	4	0	0	2	4	5	11	11	1	

本数 (D. B. H. 4cm 以上) では (上) を 50% 以上混交する個所 14 があるが、材積では 6 で 30% 以下が 23 の多きに達し (上) に属する樹種は成立本数の割に材積少く径級が比較的小さいことがうかがわれる。ha 当換算の本数及び材積 (D. B. H 4cm 以上) は 13-15 年生林 (4ヶ所) 平均 8,656 本, 72m<sup>3</sup>, 16-20 年生林 (3) 平均 7,290 本, 98m<sup>3</sup>, 21-25 年生林 (16) 平均 7,170 本, 152m<sup>3</sup>, 27-30 年生林 (10) 平均 5,266 本, 164m<sup>3</sup>, 31-32 年生林 (4) 平均 4,919 本, 181m<sup>3</sup> である。次に調査地に現出した各樹種の成長量を比較するため 1 調査地に 5 本以上現出した樹種につきその平均直径 (4cm 以上) を算出し最も占有材積の多いコジイを 10 とする時次のようになる。

炭材等級	上		中	下	
	カシ類	其他		コジイ	其他
平均直径	5.6	5.4	6.4	10.0	6.0

現出度の多い主な樹種別ではアラカシ 5.3, ウラジロガシ 5.7, ハナガガシ 5.2, イスノキ 4.3, エゴノキ 5.2, ネズミモチ 5.1, ヤマツバキ 3.9, ヤマザクラ 7.6, ヒサカキ 3.8, マテバシイ 8.0, リンボク 5.1, シデ 7.4, サザンカ 4.2, モチノキ 4.5, イタジイ 9.6, タブノキ 6.2, ヤマビワ 5.1, クマノミヅキ 7.7, コナラ 7.9, クス 7.4, サカキ 3.6, ネムノキ 9.6, ユズリハ

6.2, ヤブニツケイ 4.7, カゴノキ 5.8, クロキ 5.6, クリ 7.8, イヌビワ 3.7, アカメガシワ 7.1, イイギリ 9.0, カラスザンショウ 7.1, シロダモ 6.2, ナナメノキ 4.4 等である。次に今回調査の対象としなかつた 4cm (B. H. C.) 以下の林木は如何に成立しているかを究明するため, 1, 15, 16, 17, 27 号の 5 調査地で調べた結果は 4cm 以上に比し本数は平均 148% 材積は僅かに 7% に過ぎない。尚, この中炭材等級 (上) のものが 87% の多きを占めている。この問題については薪炭林の施業法と深い関聯が生ずるので, 後日詳述することとする。尚調査地は主として萌芽更新によつて成立しているのので, 萌芽の状況を知るため樹種別 1 株当平均萌芽数 (D. B. H. 1cm 以上) を調べた。(次表参照)

以上のように 1-2 本程度であるが, カシ類例えばアラカシはカシが主である林分では萌芽数が多いが, コジイ等が多く混交している被圧下では萌芽数が少い傾向が認められる。更に林冠構成状態を知るため, 樹高調査を行つたが, カシ林は概ね単層林型状であるが, コジイを主とする林分コジイ, カシ類その他混交林は二段林型状を呈し, コジイ等の上層林冠の下にカシ類等の下層林冠が成立している。本研究は熊本営林局の御援助によるもので, 調査に際しては県内営林署並びに担当区の各位及び本学森林経理学専攻生の御協力を仰いだ深く感謝するものである。

調査地	樹齡	炭材等級							計	備考
		上			中	下				
		カシ類	其他	小計		コジイ	其他	小計		
15	29	1.5	1.2	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	コジイを主とする
16	23	3.5	1.9	3.2	1.4	1.9	1.5	1.6	2.6	アラカシを主とする
26	27	1.7	1.3	1.3	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	ウラジロガシ, タブ, クロキ, コジイ其他

宮崎地方薪炭林施業の改善に関する研究 (第 5 報)

九州大学 井上由扶  
宮崎大学 三善正市・緒方吉篁

宮崎県に於ける薪炭の生産量は県林産課の昭和 28 年度調によれば, 木炭 61.4 千吨 (全国で 12 位) で, そのうち民営 53.4 千吨 (87%) 官営 8.0 千吨 (13%) である。

薪の生産量は 485,830 噸積石で総て民営である。即ち薪炭の生産は民営が大きな比率を有しているが, 薪炭林の現況をみるに国有林の薪炭林作業級に属するもの